

／ 精華町農業委員会だより ／

令和
7年

秋

ホウジョウ



62th! ISSUE

TAKE FREE

わたしたちの農業、
これからの10年





「大阪・羽曳野でブドウ農園を営む父の姿を幼少のころから見て育ちましたので、定年後、農業をすることに何の抵抗感もなかったですね」。

八幡さんは将来、フラワービジネス関係の仕事に就きたいと考えていましたので、大学は農学部を選び、花などの研究をしていました。

1990年、時はバブルの絶頂期で

なぜ農業の道に――

以前から「京野菜」に興味があったので京都で野菜作りをしたい――。3年前、銀行マンから見事な転身を果たし、里地区で農業を営む八幡浩司さん60歳。「将来は持続可能な農業目指す」と意気込んでいます。

京野菜に憧れ、持続可能な農業目指す

期待のファーマー

里地区 八幡浩司さん

素足でつかんだ 田んぼの感触



精華町内の小中学校・南山城支援学校では、今年も各校近隣に準備された田んぼで、田植え体験をしました。保護者も駆けつけてくださり賑やかでした。

まず、水の張られた田んぼの前で整列、図表を用意して米作りの歴史や農家の願いを話していただきました。次に作業に取り掛かります。初めの一步

が踏み出せない子もいましたが、慣れてくると、暖かくて冷たい泥んこの感触を楽しみながら田植えが進みました。昨今の機械田植えとは一味違う水田が出来上がったようです。

最後に田植えを体験して学んだことを話し合って終わりました。後の水田管理は農家にお任せするのですが収穫の秋が楽しみです。（農業委員・田中吉恵

理工系学生は引く手あまた。大手都市銀行からの誘いをうけ、最初は大阪の支店に配属、それから東京へ、海外なども含め29年間勤めた後、役職定年で銀行の関連会社へ再就職しました。再就職のタイミングで大阪へ舞い戻り、3年前、第二の人生へチャレンジすることになりました。

京都の2農家で修業

京野菜が好きだった、八幡さんは京都の二つの農園で修業を積み、農業についてのイロハを学びました。北区の老舗農家では師匠が働き者で、朝から晩まで働く姿を見るにつけ、農業人としての姿勢や苦労、農業に対する知識を身に付けました。亀岡市では注目の若手農家から堆肥や土、苗作りなどの基本を勉強しました。「あの時の経験が私にとっての大切な財産となっています」と感慨深く当時を振り返る。

バランスの取れた農業を

就農を目指す人へは「自分への戒めも込めて言うなら、まずはいろいろな過程を楽しみながら進んでいったらいいと思います」。

今後の目標を問うと「働き方・収入・環境負荷」の三つのバランスを取った自分なりの農業スタイルを確立したいですね」とその眼差しには真剣さが漂っていました。

(取材＝農業委員・石本晋也)

魅力いっぱい！農業者年金

安心の積み立て方式♪

生涯、受け取れる♪

自由に保険料設定♪

大きな節税効果♪

加入できる人

- ☑ 20歳から60歳で、
 - ☑ 国民年金の第1号被保険者で、
 - ☑ 年間60日以上農業をしている人
- ※農地を持っていない農業者や、農業者の配偶者・後継者など家族農業従事者もOK。

●申し込み・問い合わせ
農業委員会事務局(TEL 0774-95-1903)

今夜の食卓

洛芋のガレット

＜20cmフライパン1枚分＞	
洛芋	30g
とろけるチーズ	30g
塩・こしょう	適量
ケチャップ	//
乾燥パセリ	//

- ① 洛芋を千切りにする。
- ② フライパンに油をひき千切りにした半量の芋を入れ、とろけるチーズをのせ残りの洛芋をのせ塩、こしょうをして両面こんがり焼く。
- ③ ②を皿に移して好みでケチャップ、乾燥パセリをのせる。



(農業委員・杉本邦子)

農業経営と暮らしに役立つ

※令和8年4月からは毎月

全国農業新聞

地方方面には身近な情報

申込は農業委員会事務局95-1903

週刊、購読料月加円



食べよう！ made in JAPAN

昨年、地域の農業を10年先まで見据えて「どう守り、どう育てていくか」を描いた未来への設計図、「地域計画」を策定し、将来にわたり守っていく農地の担い手を示した目標地図を作成しました。

今回の目標地図は、その未来への設計図をかたちにする第一歩。地域のみなさんと一緒に描く「農業の未来予想図」として、これからの取り組みに役立てていきます。

目標地図ってなに？

農業を取り巻く環境は、担い手不足や気候変動など大きく変わってきています。そんな中で作成したのが「目標地図」です。これは「将来も守るべき農地の範囲」と「その範囲内の農地」筆ごとに将来の耕作者」を示した地図

で、未来の農業を考えるための大切な資料です。

どうやって作るの？

目標地図は、農業委員会が中心となり、地域の農家の意向をもとに作成しました。「この土地は続けられる」「ここは難しいかも」といった現場の声を地図の色分けによって明らかにし、地域全体の将来像を整理しています。

担い手に農地を集める

目標地図の大きな目的は、担い手・後継者がいない農地を明らかにし、新たな担い手を確保することにより、将来にわたって守るべき農地の維持、有効な活用を進めていくことです。その中でできる限り農地の集約化を図り、効率的な農業を営める環境を作っていくことが必要です。

未来へつなぐ羅針盤

目標地図は、一度作って終わりではありません。新しい担い手が現れたり、環境が変わったりすれば、地図も更新していきます。いつでも現状に沿った姿を示すことで、地域農業の未来を導く羅針盤となっていきます。

地域計画・目標地図に関するホームページはこちら



☑ 秋起こしに対する助成

11月末までに稲刈り後の田んぼを10アール以上耕運(秋起こし)した方に、10アールあたり2500円を助成します。11月4日(火)から12月22日(月)までに申請してください。

☑ 良質米出荷にも助成

一等の主食用米をJA精華町支店へ出荷した方に、特別栽培米は30kgあたり600円、特別栽培米以外は30kgあたり500円を助成します。申請不要です。後日、JA経由で振り込みます。

※予算の範囲内での助成となります。詳しくは農政課(TEL 0774-95-1903)にお問い合わせください。



tweet note

この度本誌ホウジョウが、京都府農業会議のコンクールにて奨励賞をいただきました。これも皆さんの御協力のおかげだと思っております。これからもよろしくお願いします。



農業委員会だよりの
ホームページはこちらから

精華町農業委員会事務局 京都府相楽郡精華町大字南稲八妻小字北尻70番地(精華町役場3階)
TEL 0774-95-1903
令和7年9月発行 ※本紙は町ホームページでも公開しています。

